

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第三十五回）

松浦川（現・玉島川）と万葉集

・松浦川（現在の玉島川）は九州の北端、唐津湾に面する佐賀県唐津市の南東部で福岡県に接し、両県の県境をなす背振山地（主峰・背振山一〇五五メートル）西部に位置する唐津市七山と福岡県糸島市二丈町との境にある荒川峠付近に源を発し今の国道323号線（佐賀市内から唐津市浜玉町に通ずる国道）に沿いながら東から西に多くの支流を集めながら唐津市七山、浜玉地区の山間部などを曲りくねりながら流れ唐津市浜玉町玉島から唐津湾南東奥部に注ぐ全長約16キロの河川である。

・松浦川は「古事記」「日本書紀」「肥前国風土記」に神功皇后が朝鮮出兵のときに、玉島の里（現・唐津市浜玉町玉島）付近を流れる松浦川で石の上にお立ちになって鮎を釣って武運の成否を占ったという「神功皇后アユ釣り伝説」で著名である。

・万葉集第五卷には大宰帥（長官）・大伴旅人が松浦川（現在の唐津市玉島川）に遊んだ時の歌が十一首ある。

・滝口弘著「九州の万葉」には、この「松浦川に遊ぶ」の歌は大宰帥大伴旅人が管内巡行のうちに神功皇后伝説が伝わる松浦川の故地を訪れた際に鮎を釣っている少女らに会い、その少女達と贈答したという形で作られたものであるが、大伴旅人が松浦川で釣りをしている少女を見て仙女を想像したか、あるいは神功皇后の鮎釣り伝説を思い起こして作ったものでフィクションであろうと述べる。

まつらがは

かわ

せ

あゆ

松浦川 川の瀬光り 鮎

いも

釣ると 立たせる妹が

も

すそ

裳の裾濡れぬ

巻五―855

作者…大伴旅人

(解説) 松浦川の川の瀬が光り、そこに鮎を釣ると立たれるあなたの裳の裾がぬれました。

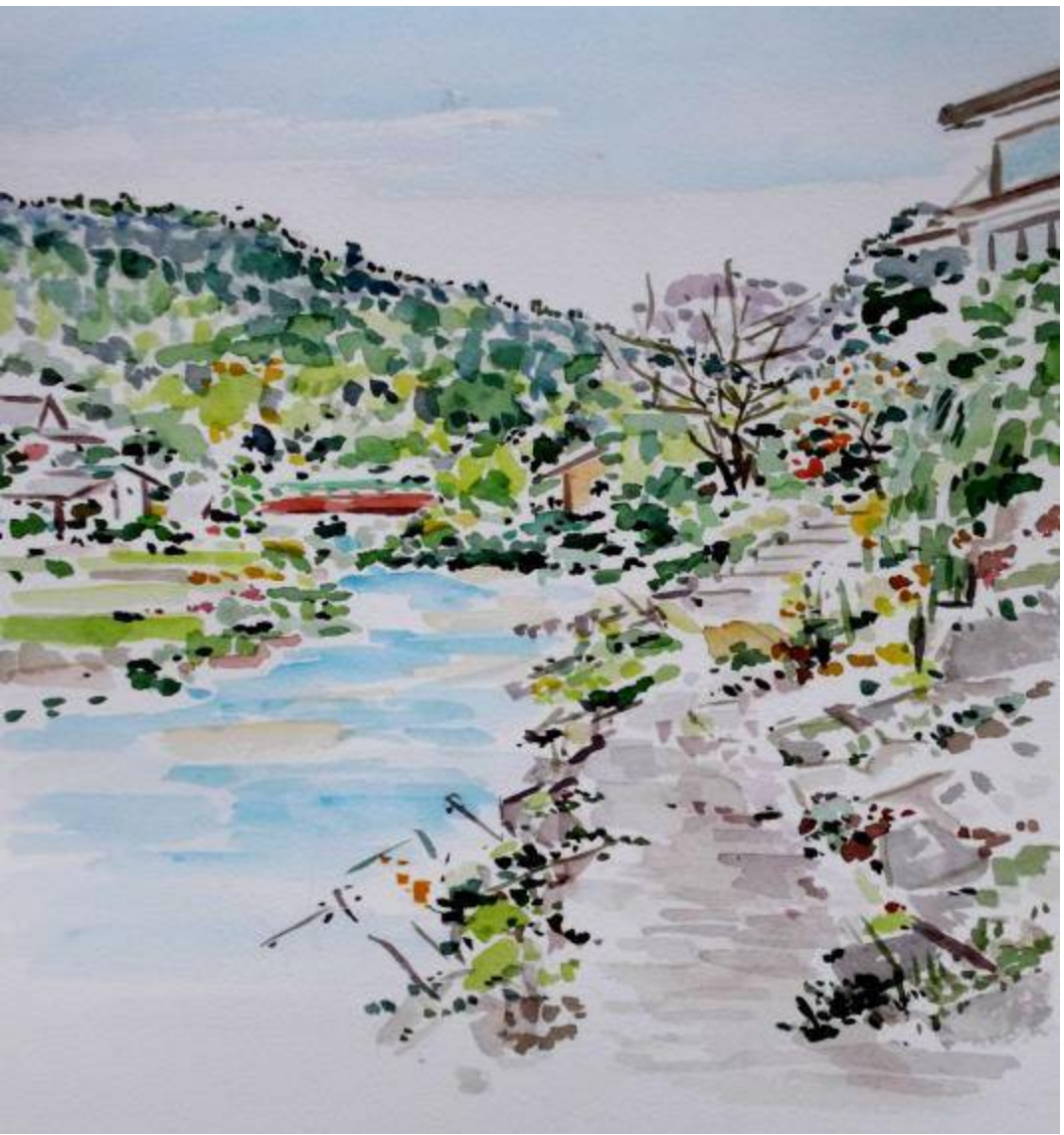
この歌は大伴旅人が松浦川に遊んだ時に神功皇后が、この地で鮎を釣って占ったという故事をふまえながら作られ

たと思われる歌の一首である。

(写生地1)

神功皇后が祭られている玉島神社の前を流れる玉島川上流約50mの玉島の里(現・唐津市浜玉町玉島)の中心部から山々に囲まれた上流の七山方向の風景を描く。

(池田杏花)



この神功皇后伝説が伝わる玉島の里へは福岡市街地から約

40キロメートルの位置にあり、福岡市内から唐津市内間を運行するJR九州・筑肥線「浜崎駅(唐津市)」に下車し、バスに乗り換えて10分程で神功皇后を祭った「玉島神社」に至る。この神社前を流れる玉島川左岸辺りに川からひきあげられたという石が神功皇后垂輪石と伝えられているが、現在は50m程上流の公園内に置かれている。

・玉島川はこの玉島の里から東方約11km上流の唐津市七山と福岡県糸島市二丈町の境、荒川峠を源に国道323号線に沿い西に支流を集めながら七山から浜玉町の溪谷地帯を流れ唐津市浜玉町玉島から唐津湾に注ぐ清流で、その源流から途次の絶景に目を見張るものがある。

わぎへ

春されば 我家の里の

かはと

あゆこ

ばし

川門には 鮎子さ走る

きみ

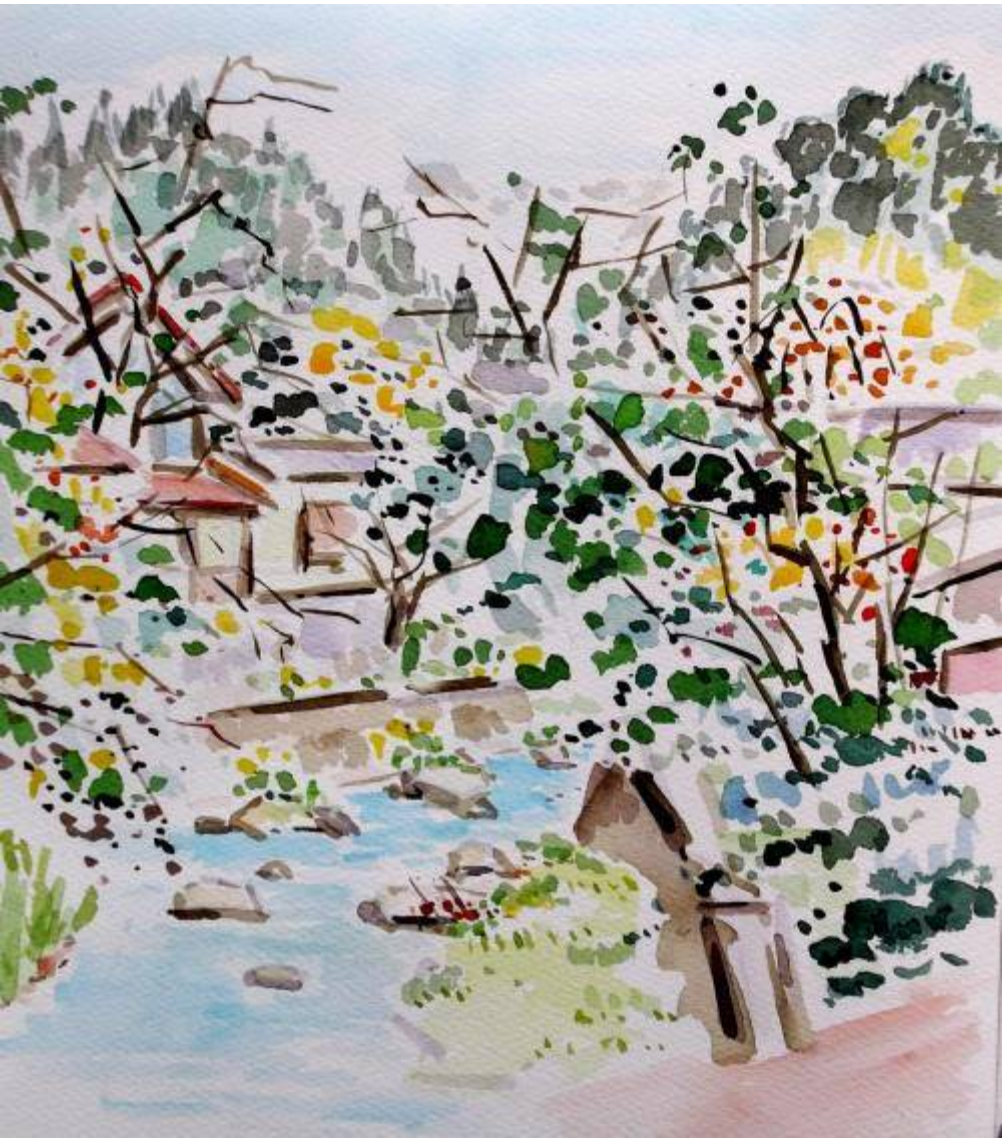
君待ちがてに

(解説) 私たちが住む里の「川門(かはと)」「(川の狭い所)には若鮎が走り回っています。あなたのお出でを待ちかねるかのように。この歌も、大伴旅人が玉島川に遊んだ時に詠んだ十一首の中の一首である。

(写生地2)

玉島川の源である荒川峠から約1キロメートル下流の七山・(馬川)の集落の中の「川門(かはと)」を流れる玉島川風景を描く。

(池田杏花)



・松浦川（玉島川）は今も、鮎の釣り場として有名であり毎年6月からの鮎釣り開始とともに多くの釣り客が訪れている。また、毎年10月中旬には浜玉町では鮎釣り祭りが開催され多数の参加者で賑わっている。

・この地域を走るバスは浜玉から七山に入ると坂道を上るが、特筆すべきは、乗車客が車内から風景を眺めながら希望する場所で乗降することができるため風光明媚な場所を選び自由に乗降でき、ゆつくりと散策し風景を堪能することができる。

（参考文献）唐津市史、七山村史、滝口弘著「九州の万葉」等

「玉島川位置図」

